

1. 事務事業評価（地方創生関連事業）

平成29年度 地方創生推進交付金対象事業

事業番号		1		平成28年度 地方創生推進交付金 歩行者天国実施事業		
事業概要説明書						
事務事業名		歩行者天国実施事業				
担当部署	商工労働観光部	担当所属	商工労政課	担当班・係	商業にぎわい担当班	
事業開始年度	平成28年度	根拠法令等				
実施方法 (該当するものをすべてにチェック)		☒ 直接実施(アンケート調査、交通量調査等)				
		☐ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)				
		☒ 補助金(補助先: 大分市中央通り歩行者天国推進委員会 実施主体: 同左)				
		☐ その他()				
目 的 (何のために)		市道中央通り線を活用した歩行者天国の開催により、本市中心部に新たな魅力を創出し、中心市街地の回遊性の向上や来街者のまちなか滞留時間の延長を図ることにより、中心市街地の活性化につなげ、ひいては本市全域はもとより、県内全域の経済活性化を目指す。				
対 象・手段 (誰(何)に対して何をするのか)		歩行者天国の実施主体である「大分市中央通り歩行者天国推進委員会」に対して、開催補助金を交付することにより事業の円滑な実施を推進している。 当該推進委員会は、歩行者天国の開催にあたり、イベント内容の企画や関係機関等との調整を行うとともに、市内外に向けて情報を発信し、効果的に実施している。 また、歩行者天国とその他のイベントとの連携を図ることで相乗効果を生み出す。 なお、当該推進委員会は、商店街や経済界、学識経験者、公共交通事業者、報道機関、行政等から構成されている。 《参考》				
			日時 《天候、最高気温》	人数	コンセプト	内容
		第3回	平成29年4月16日(日) 《晴れ、21℃》	28,000人	お花見ホコ天 中央通りがマチナカ座敷に	200量の量の上で花を設置したゾーンの設置や県内自治体や企業等のご当地キャラクターの登場、㈱JR大分シティとの連携イベント(ラグビーバス)など
		第4回	平成29年10月20日(土) 《大雨、19℃》	15,000人	1期1音の中央通り	「おおいた夢色音楽祭2017」との連携として、メインステージにて「シーナ&ロケッツ」によるスペシャルライブのほか3箇所の演奏ステージでのライブなど ※雨天対策としてエアータント4張を設置
		第5回	平成30年2月10日(土) 《雨、8℃》	22,000人	中央通りあふれるスマイルミネーション2	国民文化祭出演団体によるPRステージや「府内南窓ライティング」紙灯籠制作ワークショップ、冬の韓香花火会など ※雨天対策として大型エアータント3張に加え、各所に雨よけテントを設置
事業の必要性		本市においても人口減少に転じ、生産年齢人口が減少することが見込まれており、地域経済の活性化が喫緊の課題となっている。また、本市は大大都市広域圏の中心市として圏域全体の経済をけん引することが求められている。 こうした中、歩行者天国も中心市街地のにぎわい創出や県内他市町村の魅力発信の場となっており、地方創生の実現に向けた取組として必要な事業と考える。				

年 度		平成29年度（予算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
直接事業費		31,925 千円	27,109 千円	29,155 千円
財 源	地方創生交付金	15,962 千円	13,554 千円	14,577 千円
	県支出金	千円	千円	千円
	一般財源	15,963 千円	13,555 千円	14,578 千円
事業実績・目標		重要業績評価指標（KPI）		実績値 （平成29年度）
		歩行者天国イベントへ1回あたりの来場者数		21,666人
		まちなかに3時間以上滞留する人の割合		53.8%
		中心市街地の空き店舗率		11.8%
自己評価	実績評価 （目指す成果に対しての実績・達成度）	第3回は2.8万人と目標数値を超える来場者を集めたが、第4、5回は雨天の影響からそれぞれ1.5万人、2.2万人と目標数値より下回る結果となった。 まちなかに3時間以上滞留する人の割合も、指標を大幅に上回るなど、着実に中心市街地の魅力アップにつながっているものと考ええる。また、来場者アンケートにおいても、今後も実施を望む意見が大多数を占め、来場者の満足度も高い結果となった。 ③の指標については、「大分市総合戦略」に掲げる施策、「商業・サービスの振興」に係るKPIの一つを本事業にも設定したところであるが、本事業の実施が直接的な効果につながるものではなく、他の中心市街地活性化施策と一体的に取り組むことで、長期的に効果として現れるものと考ええる。		
	今後の方向性・課題／改革案	30年4月・9月の開催を含め、これまで7回の実施により、中心市街地の新たな魅力を創出するイベントとして定着しつつあるが、現状ではその効果が未だ限定的である。今後は、定期的に実施する中、本市の名物イベントとして育てていくとともに、長期的な視点での商店街の魅力向上や空き店舗の解消、さらには、地域経済の活性化につながるような工夫が必要である。 また、空き店舗率の減少に向け、空き店舗への出店サポートや既存店舗の継続を促す取組などの支援策に加え、中心市街地の魅力を創出する本事業を実施することで相乗効果を生み出していくことも重要である。 一方で、歩行者天国の開催に合わせて複数の商店街において、「食」や「音楽」などの独自イベントを開催する取組も新たに始まっており、それぞれの商店街が人を呼び込み、売上を向上させるための自助努力を行う気運も高まりつつあることから、そうした取組とのさらなる連携が求められる。 今後とも、現在、同時期に開催される市や民間のイベントとの連携や、県内他市町村による物産販売や観光PRブース等の拡充、イベント内容等の改善によるコスト縮減などにも努めているが、今後も継続的に取り組んでいくためには、さらに様々な主体と連携を図りながら効果的かつ効果的なイベントに成長させていく必要がある。		
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）		【札幌市（H29） 名称：さっぽろホコテン 予算：約100万円／18回】 実施主体：札幌大通まちづくり株式会社 実施場所：札幌中心部の駅前通・南一条通 実施回数：年18回 特 徴：昭和48年から多くの市民や観光客が行き交う大通エリアで利用を希望する民間団体や企業から使用料金を徴収しながら実施している。 【帯広市（H29） 名称：オビヒロホコテン 予算：約500万円／12回】 実施主体：帯広まちなか歩行者天国実行委員会 実施場所：西2条通り 8丁目・9丁目、西1条通りから西2条藤丸南側まで 実施回数：年12回 特 徴：平成18年から市民ボランティアによる実行委員会形式で実施しており、市民サークルや学校、企業等が持ち込み形式で企画を行っている。		
特記事項 （参考情報等）		各回ごとに時期やイベント内容に併せて開催時間を考慮する必要がある。		

1. 事務事業評価（地方創生関連事業）

事業番号		2		平成29年度 地方創生推進交付金対象事業										
事業概要説明書														
事務事業名		アートレジオン推進事業												
担当部局	企画部	担当所属	企画課	担当班・係										
事業開始年度	平成29年度	根拠法令等												
実施方法 (該当するものをすべてにチェック)	☒ 直接実施													
	☐ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)													
	☐ 補助金(補助先:		実施主体:)											
	☐ その他()													
目的 (何のために)	人口減少や少子高齢化が進む佐賀県、野津原、大南地区の周辺地域にアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動を通して文化芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで地域の活性化につなげる。													
	魅力的なアーティストを戦略的に呼び込むために、「アーティストの移住・定住促進」と「アートイベントによる地域の活性化」の2本柱で、効果的な事業の推進を図る。 まず、地方への移住を考えているアーティストに対して、本市へ興味をもっていただくための各種取組を推進することで、潜在的な移住希望者の掘り起こしを図る。また、地域おこし協力隊(文化芸術振興部門)と連携・協力を図り、創作活動や作品発表の場を提供することで任期後の定住につなげる。 次に、アーティストと地域住民が連携したアートイベントを開催し、市内外から参加してもらうことで地域の活性化につなげる。また、呼び込んだアーティストの創作活動の場として、佐賀県地区の旧大志生木小学校の一部をアトリエとして活用するとともに、地域とアーティストとの交流拠点とする。 【平成29年度の実施内容】 <table><tr><th>項 目</th><th>内 容</th></tr><tr><td>アーティスト移住可能性調査</td><td>全国におけるアーティスト移住の先進事例や本市におけるアート活動の現状及びインセンティブ策に係る調査・検討を行い、今後の効果的な事業の推進を図る。</td></tr><tr><td>大分市アーティスト移住ガイドブック</td><td>地方移住を希望するアーティスト向けに、本市の佐賀県、野津原、大南地区の魅力や移住・定住支援等の紹介、本市在住のアーティストのインタビューを掲載したガイドブックを制作した。 NPO法人ふると回帰センター(東京都)等に設置したほか、全国の芸術系大学や移住相談会等で配布し、全国へ情報発信を行った。</td></tr><tr><td>おいたアート移住見学ツアー(大分都市広域圏 連携事業)</td><td>大分市・由布市・竹田市に拠点を構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを平成30年2月6日・7日に開催した。 また、大分県移住コンシェルジュにもツアーに同行していただき、移住希望者へ専門的なアドバイスをしていただいた。</td></tr><tr><td>学校跡地を活用したアートイベント</td><td>佐賀県地区の旧大志生木小学校で「開校！大志生木こどもアート学校」を平成29年8月19日に開催し、アーティストによるワークショップや旧小学校の歴史展、地元産品の販売等を行った。 また、学校跡地でアートイベントを行うことで、アーティストに対して、今後のアトリエ活用に向けた情報発信を行った。</td></tr></table>					項 目	内 容	アーティスト移住可能性調査	全国におけるアーティスト移住の先進事例や本市におけるアート活動の現状及びインセンティブ策に係る調査・検討を行い、今後の効果的な事業の推進を図る。	大分市アーティスト移住ガイドブック	地方移住を希望するアーティスト向けに、本市の佐賀県、野津原、大南地区の魅力や移住・定住支援等の紹介、本市在住のアーティストのインタビューを掲載したガイドブックを制作した。 NPO法人ふると回帰センター(東京都)等に設置したほか、全国の芸術系大学や移住相談会等で配布し、全国へ情報発信を行った。	おいたアート移住見学ツアー(大分都市広域圏 連携事業)	大分市・由布市・竹田市に拠点を構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを平成30年2月6日・7日に開催した。 また、大分県移住コンシェルジュにもツアーに同行していただき、移住希望者へ専門的なアドバイスをしていただいた。	学校跡地を活用したアートイベント
項 目	内 容													
アーティスト移住可能性調査	全国におけるアーティスト移住の先進事例や本市におけるアート活動の現状及びインセンティブ策に係る調査・検討を行い、今後の効果的な事業の推進を図る。													
大分市アーティスト移住ガイドブック	地方移住を希望するアーティスト向けに、本市の佐賀県、野津原、大南地区の魅力や移住・定住支援等の紹介、本市在住のアーティストのインタビューを掲載したガイドブックを制作した。 NPO法人ふると回帰センター(東京都)等に設置したほか、全国の芸術系大学や移住相談会等で配布し、全国へ情報発信を行った。													
おいたアート移住見学ツアー(大分都市広域圏 連携事業)	大分市・由布市・竹田市に拠点を構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを平成30年2月6日・7日に開催した。 また、大分県移住コンシェルジュにもツアーに同行していただき、移住希望者へ専門的なアドバイスをしていただいた。													
学校跡地を活用したアートイベント	佐賀県地区の旧大志生木小学校で「開校！大志生木こどもアート学校」を平成29年8月19日に開催し、アーティストによるワークショップや旧小学校の歴史展、地元産品の販売等を行った。 また、学校跡地でアートイベントを行うことで、アーティストに対して、今後のアトリエ活用に向けた情報発信を行った。													
対象・手段 (誰(何)に対して何をするのか)														
事業の概要														
事業の必要性	今後、本市では人口減少に転じることが予測されており、特に少子高齢化も著しい周辺地域においては、人口の維持や地域の活性化等が喫緊の課題となっている。また、本市は大分都市広域圏の中心市として、連携協約に掲げる「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に基づいた、移住・定住対策をけん引することが求められている。 こうした中、全国でも特色ある事業を推進するため、アーティストのような魅力ある人材を本市の周辺地域及び圏域市町に誘致し、その人がさらなる人を呼び込む相乗効果も合わせることで、地域の活性化を図っていく必要がある。													

年 度		平成29年度(予算)	平成29年度(決算)	平成30年度(予算)								
直接事業費		10,789 千円	7,183 千円	10,481 千円								
財 源	地方創生交付金	5,394 千円	3,591 千円	5,240 千円								
	県支出金	千円	千円	千円								
	一般財源	5,395 千円	3,592 千円	5,241 千円								
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)【目標年月：平成32年3月】	指標値	実績値(平成30年3月)								
		アーティスト移住者数 【目標指標値/29年度:0人 H30年度:1人 H31年度:1人】	2人	0人								
		移住体験(見学)アートツアーの開催 【目標指標値/29年度:1回 H30年度:2回 H31年度:2回】	5回	1回								
		ワークショップ等のイベント開催数 【目標指標値/29年度:1回 H30年度:2回 H31年度:2回】	5回	1回								
自己評価	実績評価 (目指す成果に対しての実績・達成度)	アーティスト移住可能性調査により、本市の現状把握や移住のインセンティブ策の検討を行ったことで、今後の効果的な事業推進の土台づくりができた。また、アーティストに特化した移住ガイドブックを制作・配布したことで、県外のアーティストからの問い合わせやアトリエ見学などがあり、潜在的な移住希望者の掘り起こしにつながったものと考ええる。 移住体験(見学)アートツアーについては、大分都市広域圏の連携事業として計画通り開催し、圏域内のアトリエ見学や圏域在住アーティストとの意見交換等を行った結果、参加者から旧大志生木小学校のアトリエ利用者が生まれるなど一定の成果があった。 ワークショップ等のイベントについては、旧大志生木小学校を会場に計画通り開催し、地域、アーティストが運営を通して交流を図る中、市内外から多くの人が訪れるなど、地域のにぎわい創出につながった。										
	今後の方向性・課題 ／ 改革案	佐賀県地区の旧大志生木小学校のアトリエ活用については、平成29年度の実績の結果、平成30年度から4組のアーティストが利用している。今後は、学校跡地だけでなく、空き家を活用したアトリエ利用について関係課と連携しながら推進していく必要がある。 また、呼び込んだアーティストについても定住につながるよう、大分都市広域圏で連携したワークショップの開催や作品発表の場の提供などの活動支援を行っていく必要がある。 そして、ワークショップ等のイベントについては、旧大志生木小学校をアトリエ利用するアーティストが佐賀県地区のみならず、大南地区、野津原地区へと展開していくことで、地域活性化の効果を広範囲に波及させていく必要がある										
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		【県内における学校跡地を活用したアトリエ事例】										
		<table><tr><th>市町村名</th><th>内 容</th></tr><tr><td>竹田市</td><td>竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。</td></tr><tr><td>由布市</td><td>絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。地域と連携したアートイベントの開催実績あり。</td></tr><tr><td>国東市</td><td>国東時間読書のオフィス(旧西武蔵小学校) ※平成21年利用開始 オリジナルの段ボールクラフトの制作工場やギャラリー、オフィスとして活用。</td></tr></table>			市町村名	内 容	竹田市	竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。	由布市	絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。地域と連携したアートイベントの開催実績あり。	国東市	国東時間読書のオフィス(旧西武蔵小学校) ※平成21年利用開始 オリジナルの段ボールクラフトの制作工場やギャラリー、オフィスとして活用。
		市町村名	内 容									
		竹田市	竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。									
由布市	絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。地域と連携したアートイベントの開催実績あり。											
国東市	国東時間読書のオフィス(旧西武蔵小学校) ※平成21年利用開始 オリジナルの段ボールクラフトの制作工場やギャラリー、オフィスとして活用。											
特記事項 (参考情報等)												